

中学校の規模と配置の適正化の必要性

本市としては、次のような視点から、統廃合によって小規模校を解消し、学校の規模と配置の適正化を図る必要があると考えています。

① 集団教育の充実

生徒数が増えることにより、生徒同士の出会いや人間関係に広がりが見込めます。また、学級数が増えることにより、学級間の交流が活発化し、互いに切磋琢磨しようとする意欲も高まります。これらを通じて、人間関係の大切さや集団としてのルールをより学ぶことができるようになります。

② 教科学習や指導の充実

教員数が増えることにより、一人の教員が分掌する校務が減り、教材研究の時間や個別指導の時間を確保しやすくなります。さらに、学級数が増えることにより、学級間の交流の幅が広がり、相互に切磋琢磨しようとする意欲も高まり、これらを通じて、生徒の学習意欲を喚起することができるようになります。

③ 学校行事や部活動の充実

生徒数や学級数が増えることにより、体育祭で実施できる種目の幅が広がり、学級間の対抗戦も盛り上がるなどして、学校行事の活性化が図られることとなります。また、部活動にしても、教員数が増加することにより、指導できる部活動の数も増え、生徒の希望にかなう可能性が高まり、部活動の活性化が図られることとなります。

④ 学校施設の充実

校舎や体育館、プール等について、すべての施設を改築又は改修することとなると、長期の取組が必要となりますが、学校の数を削減することにより、校舎等の改築や改修をより計画的に推進することができるようになります。

⑤ 地域社会との連携の強化

教員数が増えることにより、地域社会の要請に応えやすくなります。